

令和2年度第3回太白区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事録

○日 時：令和3年3月14日（日）午前9時～15時00分

○場 所：太白区役所4階第1会議室及び第2会議室

○出席委員：青木ユカリ委員長、岡部邦彦副委員長、岩間友希委員、笹崎久美子委員、菅原玲委員、本田茂委員

○事務局：木田まちづくり推進部長、山田まちづくり推進課長、千葉地域活動係長、竹内地域活動係主任、高橋地域活動係主事、佐々木地域活動係主事

○会議内容

1 開会

2 第1回議事 【非公開】

議事録署名委員に岩間委員を指名した。

(1) 評価基準・採点方法について説明

(2) 助成予定額について説明

(3) 申込事業の概要説明

3 まちづくり活動助成事業に係る事業計画説明会 【公開】

(1) 開会

(2) 事業計画の説明及び質疑応答

※新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、各申込団体は入れ替え制としたため、説明会の進行や採点方法、選考結果の発表時期等については、団体毎に個別説明し対応。

「富沢健康サロン「緑の会」」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 元気でいれる方と引きこもってしまう方との差が地域で非常に大きな問題となってくるが、そこを引っ張り出してくる、意味のある活動だなと感じた。コロナの問題は今後も続くと思うが、会員50人や地域2,000世帯が参加する大会場での講座を運営するにあたって、感染防止対策はどう考えているのか。

[説明者] 会場は庄文亭という大広間がある。間隔を1.2mあけると、ゆっくり座っても100人近い、60人は大丈夫。その半分の30名の参加であれば大丈夫。会員全員が集まったのでは密になるので、そこは抑えていこうと思っている。ただ、コロナ禍だからやめるでは運営はできなくなっていくから、コロナであっても継続はする。人数を抑えて、心配のないようにきちっとして

いきたい。

〔委員〕まずは50人の会員を中心に少人数でやっていくということか。地域2,000世帯とあるが、引きこもって出てこない人は潜在的にどのくらいいるのか。

〔説明者〕人数については、把握していない。町内会の班長が市政だよりを配ったりしていると、引きこもって家庭から出てこないかはだいたいわかる。そういった人たちの情報を集めながら、声をかけていこうと考えている。

〔委員〕動く方は声をかけて出てくると思うが、なかなか出てくれない人たちを呼び込むための策はなにかあるか。

〔説明者〕どこの町内会でも敬老のお祝いをしていることが多く、そういう方がどうなっているかがだいたい見える。年齢が90歳でも元気に外に出ているか、ほとんど出ていないか。2,000世帯をくまなく全てというわけにはいかないが、町内会に入っていれば、情報としてはある程度把握できるので、そういうことは可能だと思う。

〔委員〕人を集めるのに、なかなか回覧板だけでは集まらないと思うが、現会員の役割分担について、教えていただきたい。

〔説明者〕役員の担い手がいないと2,000世帯だといっても、実際に誰がどういうことをするのだということになるが、役員というところから拒否される。「緑の会」ではサポーターと呼び、サッカーの応援団みたいに地域活動の支援をしてもらう。できるだけ動けるような、いわゆるお世話役、サポーターとして実施して活動している。

〔委員〕会員の中にサポーターの役割の方が何人かいるということか。

〔説明者〕そのとおり。サポーターの中に女性も多く、4~5人いる。男性が家庭訪問しても怪しいと思われるが、女性が行くと素直に応じてくれることもあるので、「緑の会」の役員は6人中4人が女性である。

〔委員〕どこの地域でもやっていかなければ立ち行かなくなる課題に取り組んでいて、とても大切なことだと思う。コロナ禍で特に高齢者の活動というと、自分の経験だと15人の定員であっても怖くて嫌だ、行かないという声が多く聞かれる。もともと会員が50人だから定員50人ではなく、もっと少人数で回数を増やすことは考えていないのか。また、地域の高齢者へ向けたサービスを行っている企業があるから、謝礼がなくても地域と寄り添っていくようなことであれば、いつでも来てくれる企業との関係は考えていないのか。

〔説明者〕現会員は50人となっているが、100人以上を目標と考えている。ただ、今の状況では大規模にはできない。なので、50人全員を会場に入れたいと考えていて、限られた数で過去2回の試験実施では40人ぐらいだった。その中で全員に声かけではなく、あまり不公平になってはいけないが、公平にしようとする50人全員来られては困るので、そういったことはどうかと考えている。そこまで踏み込んではいないが、自分自身が医療の専門家ではないので、「仙台南健康友の会」では、医者が来るように約束はしていないが、医者も出席可能となっている。毎月開催す

るときに講師料は1人分を予定しているが、実際には5~7人来ることもある。全員には払わないで、ボランティアもいる。この時だけでなく、いつでも相談に乗ってもらえるように約束している。健康に不安があって病院には行きたくないが相談したいときも相談していくことができる。

[委員] コロナの問題もあるので、講演会ありきの活動になっているが、状況を見て回数を減らしたり、会場を開放しておいて、いつでも来られるように時間を長く設定し分散して参加していただいたり、チェックシートを配布して会わないでやったりする方法もあると思うので、計画の柔軟な変更も事務局と相談しながら開催か中止だけでなく、検討した方がいいと思う。

[説明者] いただいた意見を参考にして、実施していきたい。

「ながまちテラス実行委員会」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 来年度のマルシェの活動は線づくりということで理解したが、法人化した際にそれを面にしていくのは、どのような施策で行っていくのか。また、マルシェで交流を深め線づくりをしていくのはすばらしいことだと思うが、まちを構成する人のメリットや、そこに訪れるファミリー層などが一過性のものにならないような工夫はあるのか。まちづくりとしての具体性を教えていただきたい。

[説明者] 色々な課題があると言っているが、実際にどのくらいあるのかははっきりとわかっていない状態である。まずはそこを探っていくことを来年度の1つのテーマとしている。

一過性のものにしない工夫としては、毎回、来場者にアンケートを実施してどういったものが求められているのかの情報をとっていく予定である。来年度1年間かけて、課題の抽出を行っていく、一過性にならないように次に求められているものを探っていく。

[委員] 少し事業者目線での計画のように感じたが、地域住民に提供したいものは何か。

[説明者] 長町で色々なことが起きていることを地域住人に知ってもらいたい。自分の課題に対して相談にいける場所を知ってもらったり、やりたいことに対してこんな団体があるんだということを見つけてもらいたい。今回は町内会など地域のコアになっていく団体との交流は計画していないが、活動を見てもらいながら、今後どういう形で交流していけるかを提案していこうと考えている。

[委員] 知ってもらった先として、地域住民の豊かな暮らしにつなげていきたいということか。

[説明者] 大きなテーマとして、地域住民にとって安心安全というのは、当然としてあるべきことだと思っている。

[委員] 事業の継続性の部分で、収入に出店料がないが今後出店料をとる予定はあるのか。

また、実施内容の内訳を見ていく中で、楽しそうな感じがするが、参加者目線で楽しそうなマルシェをやっているで終わることが懸念されるが、ながまちテラス全体でやっていく広報や目的、ながまちテラスに属するイベントだということを周知する方法は考えているのか。

[説明者] 出店料は今後とっていく予定であるが、ハンドメイドであったり飲食であったり、色々

な金額の違いがイベントによって出てくる。今回予定のフリーマーケットの出店料も相場がある。地域で行うイベントの世間的な相場など、具体的な金額の調整ができなかった。今後は収入として確保していきながら、今後に繋げていくことは検討している。正しい答えかはわからないが、全てのチラシに必ずながまちテラスということを明記している。開催時にはのぼりを立て、ながまちテラスのイベントだという統一感のある開催にしていく。資金が集まり次第、統一感を持った開催にしていく。テーブルの組み方やテントの組み方も今後の展開として考えて、同じようなテントが並んでいてながまちテラスのカラーを出していきたい。

〔委員〕将来的に組織化をして、地域のエンジンのような機能を果たすものを生み出していきたいということがわかった。今回申請のながまちテラスはその一部の構成団体ということだったが、利用する立場ではマルシェを実施する実行委員会という印象が強くなると思うので、賑わいをつくるマルシェと広いエリアを対象とした今後の団体との役割をもう少し整理をして意識しながら活動した方がいいと思う。スケジュールに課題抽出と書かれていて、アンケートを取りながらフィールドワークをしていくイメージだと思うが、アンケートを書いた人の意見はそのままでも、同じ場所で実施しているのであれば可視化していくようにボードを利用したりすれば、もう少し関りが広がっていくのではないかと。学生の参加もあるようなので、色々な関りが作れると思う。収支予算書の東北工業大学との連携プロジェクトは、作成の予算はこちらで持ち、プロジェクトに参加する学生はその都度来るのか。

〔説明者〕イベントに実際に参加してもらって、今すぐにはできないが、統一感ということもあり、どういったテーブルや椅子がいいのかをイベントを通してミーティングを重ねていって、新年度中に試作をつくっていき、次年度以降どういう風に展開していくのかを考えていきたい。まずは、イベントを通して色づくりを進めていく部分から検討していく。

「楽元の森運営委員会」による事業計画説明及び質疑応答

〔委員〕継続・安定して子供たちに環境を提供しているのは素晴らしいことだと思うが、なぜ今回申請に至ったのかの背景を教えてください。

〔説明者〕昨年度までは、市民センターなどの事業として進めてきたが、その事業が終了することになった。まだまだ設備を充実させたいところもあり、特に今回のツリーテラスは劣化していく部分もあるのでしっかりと整備したいと考えているが、さらに継続していくために費用がかかるので今回申請した。

〔委員〕開放施設とあるが、小学校の敷地を通らないと森に入れないのか。

〔説明者〕そのとおりである。道の奥に上野山小学校があり、その敷地を通して森に行くようになる。入りにくい場所ではあるが、逆に考えると安全性があり周囲に迷惑をかけないということにもつながるので、地域の資源としていいところだと思っている。

〔委員〕今後の活用で安全面は非常に大事なことだと思う。利用のしやすさも問題になると思う

が、運営委員会などの関係者が利用できるということか。

〔説明者〕仙台市の学校の施設開放は、市民であれば誰でも利用できる。体育館や校庭をスポーツ少年団や地域団体が利用している。それと同じような施設になる。市民であれば、誰でも申し込めば利用することができる。

〔委員〕利用者は相談や申し込みが必要になるということか。

〔説明者〕学校に申し込めばいい。

「金剛沢緑地愛護協力会」による事業計画説明及び質疑応答

〔委員〕出しゃばらないと言いながら、陰でこれだけの活動をやり遂げられたのはすばらしいことだと思う。計画が非常に大きいものであるので、さらに先を考えたときに維持管理も必要な事業になると思うが、先のことはイメージしているか。

〔説明者〕将来的には、800万の助成（緑の環境プラン大賞）がもらえればと考えている。いずれにしても、自分たちで手作りしていく必要があると思う。地域づくりのプラットフォームをねらいとしているので、世代と地域を越えた巻き込みをして、地域課題を解決する手段になればいいと思っている。特に八木山地域は高齢化が進んでいて、高齢者が生きがいをつくれないうということもねらいとしている。将来どういうことをねらっていくかは、まず走りながら考えるしかないと思っている。今年度の助成が決定してから、実現に向けてみんな集まってくれた。そういうことをやりながら、竹ちぐらも立派なものが3つもできたしラベンダー畑もできた。その合言葉は「適当に」だった。みんなが適当にやることで個性がでたり、やりがいができるということで進んできたので、これが目標というのは今のところなく、まだまだ変化していくと思う。ただ、地域福祉のプラットフォーム、地域と世代を越えた生きがい創造の場というものを目指していきたい。やりながら考えているので、そこはまだである。

〔委員〕多くの団体のモデルとなって広めてほしい活動だと思う。うまくいっている要因はいくつかあって、みんなを巻き込んでいくビジョンがあり、荒れた緑地をなんとかしていこうと思ったときに多くの人はどこから手をつけていいかわからないが、覚悟を持って決めたことが大きいと思う。この活動はみんなのためになるというのもいいことだと思った。毎年目標を決めて、少しずつ良くなっていく達成感が見えるところも活動が続くポイントだと思う。できていく過程で地域の関係もできていて、まちづくりのうまくいくポイントをしっかり押さえた活動だと思う。これだけいい活動なので、今抱えている課題や困っていることを教えていただきたい。

〔説明者〕今までの活動を成功だったと評価してもらえるのであれば、成功の8割は草刈りだと思っている。草を刈ってきれいになったら、みんなの機運も高まってきた。これからも草刈り8割で、軽井沢をしのぐ緑地にしていきたい。そうするといろんなアイデアが生まれてくる。

2月にLEDランプを300個買って並べたものが日赤病院から見えて、ハートのマークや十字のマークを作って喜ばれた。そういう風に今度はチェロのコンサートみたいなものを地域含めて開催

したい。そうすると色々な盛り上がりができる。何が困っているかと言うとお金がないことで、草刈りするにも自分たちで持ってきて、機材類が不足している。いずれにしてもベースとなるものが必要だが、なかなか調達できていない悩みがある。ないわけではないが、盛り上がりの伝統を誰に引き継いでいくかというところに、小学校やおやじの会をいかに巻き込んでいくかが課題だと思う。今は財源的な部分が一番大きい。

「西多賀まちづくり推進委員会」による事業計画説明及び質疑応答

〔委員〕公園を末永く守っていくという気持ちで、様々な取り組みをされていて素晴らしいと思う。公園課の管理と市民の協働で色々な活動を考えていて、公園課との勉強会なども検討しているようだが、2回目の予算申請ということで、そのあともずっと続けていくためには、予算面でもそのあたりが大切になってくると思う。公園課とのつながりもあると思うが、地域から協賛金や募金を集めるなど地域で活動していく流れはどう考えているのか。

〔説明者〕樹名板作成は助成事業として行っていたが、地域の建業の皆さんが廃材を樹名板として使ってくださいと200枚寄贈してくれた。そういう意味を考えると、自分たちがやっていることに住民たちが理解を示してくれている。そういうことから、植木屋さんと協働できないかということを実際に考えた。もちろん公園愛護協力が清掃は行っているが、具体的に桜の木を剪定したり肥料を入れたりするのは技術が伴うことであるから、自分たちがボランティアとしてノウハウを蓄積していったら、公園課と一緒に活動していけるように取り組んでいきたい。すぐにできることではないと思うが、自分たちも一生懸命取り組んでノウハウを高めて、将来そういうことに対して投資をしてもらえるようにしていく。今考えているのは、植樹のオーナー制度で、三神峯公園にはたくさんの種類の桜があって、仙台市では48種と言われていて自分たちで数えたところ44種だったが、今後新しいもしくは仙台にゆかりのある桜を植えていくために、そういう今まで誰もやらなかったことを少し考えて、住民と話し合って実現していく。今年のフェーズは非常に難しいことにチャレンジしていかなければならないと思っている。それは樹名板がそれだけやれたということで、地域全体で盛り上げようという雰囲気にならなければならないということとみているので、将来的に悲観はしていない。企業を巻き込めるような状態に力をつけられれば、将来は楽しみだなと感じている。

〔委員〕実際に課題や問題点を挙げていて、マンパワーが不足していたり、若い世代の意見を聞くことが課題だとなっているが、新年度の取り組みとして具体的に教えていただきたい。

〔説明者〕子どもたちを参加させるのに、直接学校に呼びかけて参加してもらおうということはない。あくまでも地域で子供たちを育てるということで、連合町内会を中心に子供たちに呼びかけている。その結果、集まったことを学校に報告している。どういってお子さんが樹名板の作成に参加したか丁寧に話を進めている。樹名板を作成した子どもたちを中心に、活動にもっと広く参加してもらおう。その働きかけが大事だと思っている。

「一般社団法人 Sound キャンパス」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 新年度は寺子屋事業に絞り込んだ申請の内容となっているが、基本的にはその場でできるプログラムやメニューを定期的に行っていくのか、具体的な内容を教えていただきたい。

[説明者] できれば秋保小学校と福聚院は大きなプラットフォームだと考えているが、子供たちを定期的集めて出前講座や寺子屋をできるかは、今のところコロナも増えているので様子を見るしかない。秋以降になると思うが、それまでにお寺の本堂を使ったり、街頭で開催したりしていると考えている。やるテーマは決まっています、今年度は新しく和太鼓をやって、文化をつなぐことに大変プラスになった。今年の1月に和太鼓の演奏をやる予定だったが、それも中止になった。全部中止となったが、寺子屋はいつでも発進できる。一番できる街頭は、今週にも作った屋台を設置して開催する予定である。

[委員] チラシ作成の話もあるが、定期開催の内容をまとめて作って、どこかに配布するのか。

[説明者] サポセンに置いたりしてはいない。ターゲットを決めて、お寺を説得して協力のもとにやるから場所代はかからないし、余計なチラシ代もかからない。意外と広報には気を使わずにできる。あまり人が多いと3密が防げなくなるので、どうしようか考えている。

[委員] 収支予算書を見ると講師謝礼と消耗品が、新年度厚みがあるかと思うが、補足していただきたい。

[説明者] 基本的にはボランティアの活動だが、ボランティアだからといって日本人は無料ということがくつきすぎる。寺子屋を手伝った方には、少しでも交通費を渡したりしないと継続できない。最初の1回2回は無料でもいいが、講師も含めてお手伝い分が厚くなっている。寺子屋の方は用具もそろってきていて、それほどかからない。あとは一般消耗品だけになるから、講師代の方が大きくなると思う。

[委員] 協賛金も予算に含まれて、会費や参加費もあるようなので、助成金は一時のものになるから自己資金の開拓や経費の削減の両面から、持続を維持していくのは大事ではないかと思う。色々な関りの中で、一定程度の提供する内容を確保することも必要だと思うが、どういう塩梅で活動していく予定なのか。また、コロナの状況を加味した場合に予定している場所と回数はどれくらい可能なのか。予定より少なくなることも含めての予定なのか。

[説明者] おそらく夏頃までは寺子屋の回数は減ると思うが、その分、街頭の方が増える。街頭紙芝居に予算を使うことは少ないと思う。本格的には秋頃になるだろうと思っている。Akiu いもの子を作ったことで協賛金をもらえるシステムにはもうなっている。基本的には栽培で儲ける団体ではなく、生産者に作ってみなさいと、作った時のアドバイス料として協賛金をもらうだけである。それで儲ける団体ではないが、そのサイクルは出来上がっている。

[委員] 里芋の作付けは非常に評価がいいと聞いているし、PTAからの評価も高いと聞いていたので、続けていくことで、何よりも皆さんが楽しんでやっていることに感化された人ができてき

ていると感じている。そういう意味では、拠点が2つできたことが大きかったのだらうと思う。冒頭に話していた、会社を卒業して次から何をしようと、そこで波に乗れず、家に引きこもってしまう人も多いと思う。そういう人たちを1人2人と増やしていくことが目的で、その手段が1つ1つの事業なのかと思うと、その事業をやるのが目的ではなく、そういう人たちを巻き込んで増やしていくことが、まちづくりに繋がっていくと感じた。子どもたちからパワーをもらったと話していたが、プラットフォームを作れたので、その次に主役となる人たちを作ってあげる事務局みたいな機能も入れていくと、元気に活動する人たちを応援する組織といったことも入れていくといいのではないかな。

〔説明者〕自分たちが事務局となるんだとは思っている。高齢者の方は、インターネットが不得意だからそういった人にどうやってやるのか、自分は得意だが得意だからといってそればかりやるとだめだから、高齢者や若い方にどういう風にすればいいのか。子どもたちにあまりやせると外に出てこない。早く子どもたちを外に出していく、自分の役割はまだあるのかと思う。

(3) 閉会

4 第2回議事 【非公開】

(1) 評価

助成の可否について

〔委員長〕各委員の評価結果をとりまとめたところ、全ての事業が当助成事業の採択候補事業の選定基準を満たす結果となったが、この結果を基に、申請された全ての事業を太白区まちづくり活動助成事業として採択候補事業とすることとしてよろしいか。

〔各委員〕異議なし。

申込事業の助成金額に係る協議内容は以下のとおり。

「わがまち 富沢・西多賀地域住民の健康づくり “いきいき はつらつ 100まで 元気”」

助成額については特に異論なく、申込どおりとする。

「ながまちテラス」

助成額についてはレンタル備品費を一部除いた形で、確定作業を進めていただきたい。

「楽元の森活用事業」

助成額について、事務局にて精査して、確定作業を進めていただきたい。

「誰もが行きたくなる“まち”づくり ―「八木山テラス」構想―」

助成額について、事務局にて精査して、確定作業を進めていただきたい。

「三神峯“桜縁”の発信と協働をさらに深化し、より優しい街に！」

助成額については会場使用料の内訳を事務局で確認のうえ、確定作業を進めていただきたい。

「つなごう 秋保千年の里山文化 ～長町の下町文化との連携共助の活動～」

助成額について、前年度の助成額を越えないように、事務局にて精査して、確定作業を進めていただきたい。

5 閉会